



TITLE:

京都大学の図書館の将来構想(案)を  
検討しています

AUTHOR(S):

---

CITATION:

京都大学の図書館の将来構想(案)を検討しています. 静脩 2007, 43(3-4):  
6-6

ISSUE DATE:

2007-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/39321>

RIGHT:

## 京都大学の図書館の将来構想(案)を検討しています

### - 京都大学図書館機構(将来構想(案))-

#### 背景

国立大学が法人化された平成16年4月に図書館協議会、1年後の平成17年4月に京都大学図書館機構が発足し、全学的な図書館機能の充実を図ってまいりました。協議会には、情報資源、サービス、組織をそれぞれ重点的に検討する3つの特別委員会が設置され、当面の諸課題の検討がなされています。検討の成果としましては、平成18年4月からは、学内デリバリーシステム(図書等の部局間配送)の運用開始や情報基盤の強化・充実のための電子ジャーナルの充実方策の検討、基盤強化経費による遡及入力事業の推進、学生用図書の充実等があります。

情報化社会の急激な変化に伴う学術情報の電子化の進展、流通形態の歴史的な変革を遂げている現在にあって、京都大学が世界的に卓越した大学として学術の発展を推進していくためには、教育・研究を支える学術情報基盤としての図書館機能の拡充・強化は今後ますます重要となります。

このためには、京都大学図書館機構のミッションやグランドデザインとも言うべき将来構想を確認、共通理解を得て、京都大学図書館機構の図書館群が一丸となって、全学の学術情報基盤を総合的に強化・充実していくことが求められます。

#### 京都大学図書館機構将来構想企画検討会の設置

これらの中長期課題を検討し、将来構想の原案を作成するために、図書館機構長の私的諮問機関として平成18年8月に京都大学図書館機構将来構想企画検討会が設置されました。

また、原案作成にあたっては副機構長を中心としてプロジェクトを形成し、全学から選定された図書系職員からなる総括WG、組織・資源WG、サービスWG、電子ジャーナルWG、リポジトリ・電子図書館WGの5つのWGを立ち上げています。

京都大学の基本理念、中期目標・中期計画及び

科学技術・学術審議会の報告(科学技術・学術審議会の「学術情報基盤の今後の在り方について」(報告)平成18年3月23日)等、学内外の新しい動向を念頭に、若手図書館職員の自由闊達な発想を活かし、一人ひとりの図書館職員が自らの問題として図書館の将来、経営に関わることでモチベーションを高め、図書館職員全体の資質向上を図りつつ、京都大学の特色を生かした新たな図書館像を作り上げることを目指して鋭意検討を進めています。

同時に、この企画検討会は、図書館業務改善検討委員会(全学の図書系職員で構成)、附属図書館研究開発室と強力に連携を保つため、検討状況をそれぞれの会議に報告し、貴重なご意見を頂いています。

#### 中間報告会等

平成18年11月2日(木)第3回図書館協議会において企画検討会設置の趣旨及び検討状況を審議していただいたうえで、協議員をメンバーとする「図書館ミッション検討WG」(座長:副機構長)を設置、現在将来構想の根幹となるミッション(案)の検討を重ねています。

また、平成18年11月22日(水)には、附属図書館AVホールにおいて中間報告会を開催し、パワーポイントの資料で将来構想の方向性をわかりやすく報告するとともに、できるだけ多くの関係者から意見や要望を得るべく努力してまいりました。

#### 今後

平成19年3月を目途に、企画検討会として将来構想案を報告書としてまとめ機構長に答申するとともに、図書館協議会においてご審議頂き、「京都大学図書館機構将来構想」として京都大学の学術情報基盤を支える図書館の中長期的なグランドデザインの確立を目指していく所存です。

(文責:副機構長 岡田)